

イカナゴ資源管理推進調査

林茂幸・山田大貴・勝田孝司¹⁾

1) 津農林水産事務所

目的

伊勢湾におけるイカナゴ漁業については、適切な親魚資源量確保のための終漁日設定等、翌年漁期を考慮した資源管理はほぼ定着しつつあるが、漁獲量の変動は大きく変動し続けている。そこで、必要となる科学的知見を収集し、自ら資源管理に取り組む漁業者に必要な情報を提供することにより、より高位で安定的な漁獲水準を維持できるようにすることを目的とする。

方法

(1) 夏眠魚調査

伊勢湾口の出山夏眠場(神島の南東約 10 km)において、親魚となる夏眠魚をから釣りにより定量的に採集し、分布密度、魚体サイズ、肥満度、年齢組成等を調査した。

(実施時期：5, 6, 7, 8, 10月)

(2) イカナゴ仔魚分布調査

ボンゴネットによるサンプリング調査を行い、イカナゴ仔魚の加入時期、発生量、成長量等を把握し、解禁日決定の資料とした。(実施時期：1~2月)

(2) イカナゴ仔魚分布調査

2017年1月17~18日にボンゴネットによるイカナゴ仔魚の分布調査を実施した結果、採集できたのは1測点のみで、湾内全測点を平均した採集尾数は0.02尾/m²であった。

2月2~3日に実施した調査では伊勢湾全域において採集されず、仔魚の加入は昨年同様、極めて悪い状況であり、過去の仔魚採集量の結果(表1)からも、2017年漁期の資源量については、2016年漁期同様、非常に低調となることが予想された。

表1. ボンゴネットによるイカナゴ仔魚採集量

		単位:尾/m ² ※愛知水試のデータを含む					解禁日	加入量 (億尾)
		1月上旬	1月中旬	1月下旬	2月上旬	2月中旬		
		伊良湖前	伊勢湾平均	全湾平均	伊勢湾平均	伊勢湾平均		
2007	H19	873	228	98	32		2月27日	182
2008	H20	145	55	18	13		3月2日	180
2009	H21	0	8	3	1		3月8日	44
2010	H22	643	236	216	310		3月3日	504
2011	H23	78	195	62	30		3月11日	283
2012	H24	141	118	60		25	3月8日	321
2013	H25	233	71	21	27		2月28日	302
2014	H26	815	26	70	29		3月2日	292
2015	H27	57	40	1	3		3月6日	89
2016	H28	0	0	0.07	0.04	0.05	禁漁	-
2017	H29	0	0.02	0	0.02			

※2017年1月下旬の全湾平均は、1月31日に愛知県が調査した三河湾と2月2~3日に三重県が調査した伊勢湾の結果を併せ1月下旬の値としています。

結果および考察

(1) 夏眠魚調査

2016年5月の調査では、平均体長は93.6mm(昨年86.1mm)、平均体重は3.53g(昨年2.75g)であり、前年よりも魚体サイズは大型であったが、採集尾数は30尾/kmで、前年(7月調査)の46尾/kmより少なく(図1)、採集されたのは当歳魚のみ。また、6月以降の調査では、採集尾数は2~8尾/kmと低調に推移。

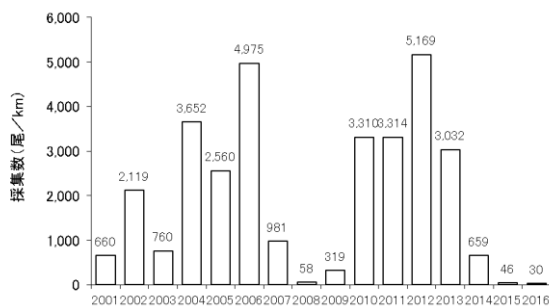


図1. 出山における夏眠魚採集数の推移

(5月下旬又は6月上旬採集 ※2015年は7月)

加入資源量の主な減少要因としては、夏眠魚調査の結果などから、これまでイカナゴの資源管理については翌年度親魚量20億尾をとり残す、とり残し資源量一定方針が行われているが、2016年漁期は禁漁としたものの、2017年漁期用親魚として20億尾が確保できていなかった親魚量不足に起因する可能性が大きいと思われる。

なお、2017年漁期は三重・愛知漁業者の協議によりイカナゴ資源量が極端に少ないとの判断から、来漁期のための親魚を確保するために、2016年漁期に続きイカナゴ漁の解禁を見合わせる事が確認されている。